

インタラクティブ・マルチメディア・インスタレーション「不思議空間」

Shizuoka University of Art and Culture
Faculty of Design
Department of Art and Science

企画概要

展示空間として特定の講義室を占有利用し、ライブ映像・背景映像・ライブサウンド等のマルチメディア空間が来場者の移動をセンシングすることにより変容する「不思議空間」を構成する。学生と教員の共同作業(コラボレーション)による作品創作の生きた実例の紹介でもある。

企画提案実行者

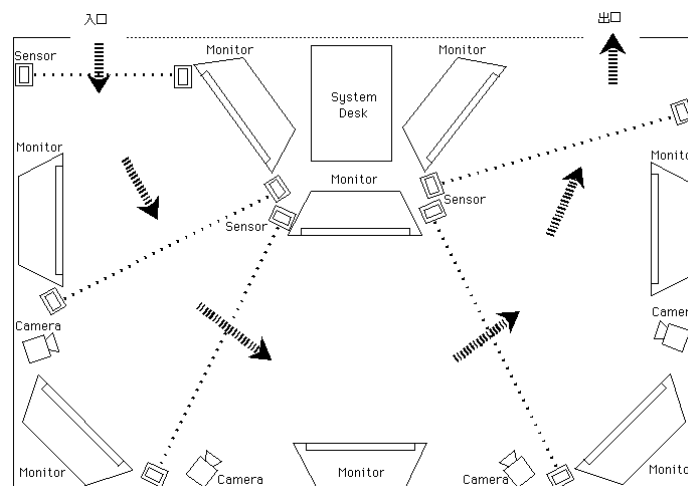
技術造形学科教員 長嶋洋一・佐藤聖徳
技術造形学科学生 北嶋めぐみ・加藤美咲・川崎真澄・林文恵・他

企画詳細内容

小講義室程度の比較的小さな部屋を専用の展示空間として使用する。室内には複数の大型ディスプレイとスピーカにより、常時、複数系列の映像とサウンドが提示されている。来場者は経路に従ってこれらを視聴しながら歩くが、会場に仕込まれた複数のセンシングシステムによってその動きが検出される。この情報はCCDカメラからのライブ映像、背景映像としてあらかじめ制作したビデオ映像・CG画像、さらにサウンドをライブに制御することで、来場者の動きに対応して、マルチメディア空間は刻々とその場限りの映像とサウンドを生成する。固定されたビデオの再生でなく、その場に存在する者のみが体験できる参加型「不思議空間」のインスタレーション作品である。

必要な設備と予算、実施計画

- (1) 会場として使用する講義室、および隣接した講義室(倉庫用)の2部屋を借用 (前日より使用)
- (2) 講義室備え付けのプラズマディスプレイ 8台借用 (前日より使用) (最低でも4台程度は必要)
- (3) マルチメディア室にあるオーディオ関係機材借用 (前日より使用)
- (4) エンドレス映像再生のためのビデオデッキ 数台借用 (前日より使用) (最低でも3台は必要)
- (5) システム全体の制御関係(コンピュータ、ビデオスイッチャ、センシングシステム、音源モジュール等)は長嶋が持っているものを提供。ただし、赤外線センサ部分は別途購入の必要あり。
- (6) 来場者検出用の赤外線センサを固定する一種のオブジェを制作するための材料も購入の必要あり。(5)と(6)とを合わせて15万円程度の予算が必要となる。
- (7) セッティングは前日5/27。当日は学生スタッフが交代制で常時待機する。映像、サウンド等のマルチメディア素材の制作とオブジェの造形も学生と教員とで共同制作する。



以上